

グリーン購入
まめ知識

vol.5

いまさら聞けない環境略字
LCA (Life Cycle Assessment)

LCAは、Life Cycle Assessmentの略で、製品やサービスの生産から廃棄までの環境への影響、いわゆる、ゆりかごから墓場までの全過程を対象に、製品の環境負荷を計測・評価する手法です。具体的には、原材料の採掘、加工、製造、物流、消費、再利用、リサイクル、廃棄処理の一連の過程を通じて投入される石油や鉄などの資源の量、エネルギーの量、そして排出する二酸化炭素の量や環境汚染物質などを算出し、環境への負荷を洗い出します。

以前は製品の使用や廃棄段階だけで環境への影響を判断されていたのですが、その結果、トータルとしては環境負荷の高いものもありました。LCAを行うことによって、全過程を通して負荷の少ない製品が判断されるようになり、また、製品やサービスのどの段階において環境負荷が高く、なっているのかが分かるようになりまし。このようなアセスメントを基礎に、問題の対策に取り組むことにより、環境負荷を効率的に下げることが出来ます。

(文/NPO法人木野環境 後藤 美咲)

京都グリーン購入ネットワーク 会員一覧

(2005年2月現在 合計108)

- | | | | | |
|---|--|---|---|--|
| <p>■企業(小計73)</p> <p>株式会社アールアイ
(株)アイテック
(株)アヴニール
旭リスター(株)
浅見商工(株)
(株)アトミックバイオ
アド・プロヴィジョン(株)
石崎産業株式会社
(株)イセト
伊藤文祥堂
イーライフ有限会社
(株)ウィングス
(株)上田屋
エコ雑貨クラブ
株式会社オー・エヌ・イー
(有)太田商店
株式会社大塚商会京都支店
オムロン(株)
オリオン(株)
(株)川島織物
川原(株)
環境技研株式会社
株式会社規文堂</p> | <p>京つけもの西利
京都機械工具(株)
京都ゼロックス(株)
(株)京都放送
(株)京都ホテル
京都リコー(株)
協和電線産業(株)
近畿オービス(株)
旭興産業(株)
(有)ケイ・イ・ケイアソシエイツ
(株)KDS
(株)グラフィック
株式会社國陽
ココヨ近畿販売(株)
(有)コンパス
佐川急便株式会社
坂元家
(株)ジーエス・ユアサコーポレーション
(株)島津製作所
(株)正美堂
(有)ジールーム研究所
ショウワドウ・イープレス株式会社
須河車体株式会社
セイコー事務機(株)
星和電機株式会社</p> | <p>大光印刷株式会社
大日本スクリーン製造(株)
(有)礼書房
(株)田中光工務店
(株)中央精器
(株)仲文選堂
西村新商店
日本新薬(株)
日本紙工(株)
日本写真印刷(株)
橋立ベイホテル
(株)花久
(株)光工業
(有)ひのでやエコライフ研究所
ブレマ(株)
平安リネン工業(株)
ホームケルン(株)
(株)堀場製作所
(株)松田洋紙店
株式会社三井田商事
(株)村田製作所
ムラテック販売(株)
八木(株)
旅館 こうろ
ローム(株)</p> | <p>■自治体(小計8)</p> <p>亀岡市
木津町
京都市
京都府
久御山町
長岡京市
舞鶴市
南丹市</p> <p>■団体(小計18)</p> <p>(特非)NPO環境フォーラム
ガラス資源化協議会京都支部
(特非)環境市民
(特非)木野環境
京都生活協同組合
学校法人 京都精華大学
コープ・イン・京都
(特非)コンシューマーズ京都
(特非)日本エコロベア協会
京エコロジーセンター
京のアジェンダ21フォーラム
(社)京都工業会
京都商工会議所</p> | <p>京都商店連盟
京都府商工会連合会
京都府生活協同組合連合会
京都府中小企業団体中央会
大学生協京都事業連合</p> <p>■個人8名</p> <p>京都大学大学院経済学研究科 教授 植田 和弘
京都・雨水の会代表 木建 信宏
NPO法人環境市民理事 上田 正幸
劇場事務所 税理士・社会保険労務士 國場 淳
NPO法人環境市民会員 木村 智
久保 浩
平井 美枝
堀田 美智子
森田 知都子</p> |
|---|--|---|---|--|

知っ得! 環境ラベル図鑑 vol.4 「FSC ロゴマーク」

正式名称: FSC ロゴマーク……環境保全に加え、先住民族の権利や労働者環境などの社会面、さらに、持続的な安定供給といった経済面に考慮して管理された森林から産出された木材・木材製品であることを証明するマークです。「FSC 認証」には、適切な森林管理が行われた森林であることを認証する「森林管理の認証(FM 認証)」とその認証を受けた森林からの木材・木材製品であることを認証する「加工・流通過程の管理の認証(CoC 認証)」の2種類の認証があります。

対象商品/サービス:
適切な森林管理がされていると認証された森林から産出された木材や木材製品につけられています。マークの使用には、FSC [Forest Stewardship Council: 森林管理協議会] の認定を受けた認証機関の認証が必要です。
実施団体: FSC
[Forest Stewardship Council: 森林管理協議会]
【URL】http://www.fsc.org/
(文/NPO法人 木野環境 後藤 美咲)



このマークがついている製品は適切に管理されている森林からの木材を使っています。適切に管理された森林とは、FSCの規定に従い、独立した機関により認証された森林を指します。

FSC Trademark © 1996 Forest Stewardship Council A.C.



京都グリーン購入ネットワーク

お問合せ/入会申込み

京都グリーン購入ネットワーク事務局 <http://www.k-gpn.org>
TEL) 075-241-4664 (FAX同じ) 【E-mail】 kgpn@dolphin.ocn.ne.jp
〒604-0932 京都市中京区寺町通り二条下る吳波ビル3階 特定非営利活動法人 環境市民内

環境にいいモノ つくる人・売る人・買う人、集まれ!



京都グリーン購入ネットワークニュース
京都GPN-news vol.5

CONTENTS

- グリーン入札について ... P.1
お知らせ/報告&レポート ... P.2
会員紹介/役員紹介/京都GPN3つの目的 ... P.3
グリーン購入まめ知識/会員一覧/環境ラベル図鑑 ... P.4

グリーン入札について TOPICS

文/京都府出納管理局財産管理課 物品契約担当 木建 信宏

京都府では昨年12月から、環境認証を取得している府内の中小企業者を対象にグリーン入札制度をスタートしました。

この制度は、環境認証取得事業者から優先して物品を購入することにより、府がこれらの事業者を積極的に応援するとともに、環境配慮に取り組む事業者の裾野を広げることが目的としています。

制度発足の背景

府庁内の物品の購入を担当している財産管理課は、京都府のグリーン調達方針を策定するセクションでもあるため、環境に配慮した物品の購入や庁内で使用しなくなった物品のリユースなど、以前から環境問題に積極的に取り組んできました。

「府内最大級の消費者である府庁の物品購入担当課として、ほかに何か環境問題に取り組むことができないか」という視点から検討を重ね、環境認証取得事業者の支援、特に、事業活動における環境配慮への取組が大企業ほど浸透していない中小企業者を支援することで、環境問題に取り組む事業者の裾野を広げようという結論に達しました。そして、このような施策を自治体の取組として終わらせることなく、近隣府県と共通の目的を持って一緒に取り組むことでより効果が得られるという思いから、滋賀県と連携して「京滋グリーン入札」を実施しました。



グリーン入札に関する情報は下記ウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/buppin/green/index.html>

制度の概要

府のグリーン入札制度は、ISO14001、KES、エコアクション21の環境認証及びエコ京都21の認定・登録を受けている府内の中小企業者からの申請に基づきグリーン入札登録を行い、これらの登録事業者のみで入札をするという制度です。

このように、環境認証取得事業者のみの入札制度は、全国初の試みです。

グリーン入札登録については、環境認証と府の物品に関する競争入札参加資格を持っていることが要件となりますが、競争入札参加資格のない方であっても、グリーン入札登録申請を行う方に限り、通常は年に一度の資格審査の受付を、随時行う特別な取扱をしています。

グリーン入札登録者名簿は府のホームページ上で公開しますので、環境配慮事業者としてのPRと同時に、府民の方がグリーン購入をする際の参考にしていただけるものと考えています。

また、グリーン入札登録申請書の中で、京都グリーン購入ネットワークへの参加の有無を確認しているため、入会方法に関する問い合わせもたくさん寄せられており、ネットワーク拡大のお手伝いになれば幸いです。

おわりに

京都府ではこれからも、環境配慮に取り組む事業者を積極的に応援し、1人でも多くの方に環境問題に取り組んでいただけるよう、京都グリーン購入ネットワークの会員の皆様とともに努力していきたいと考えています。

また、環境に配慮した物品を購入するというグリーン購入を一歩進め、環境に配慮した活動を行っている事業所から購入するというグリーン入札は、会員の皆様にも取り組める身近な環境活動ですので、是非私たちと一緒に取り組んでいただきたいと思います。

京都環境フェスティバル 2005 に 出展しました！

去る 2005 年 12 月 10 日（土）、11 日（日）に行われた京都環境フェスティバル 2005 の会場 2 階に京都グリーン購入ネットワーク企画「グリーン購入ゾーン」を出展いたしました。当日は、12 の会員企業、団体が、グリーン商品や環境への取り組みを紹介し、来場した市民に「グリーン購入」を知っていただく機会となりました。また、準備にあたっては企画の段階から会員同士で協力するなど、グリーン購入をすすめる企業団体の絶好の交流の機会となりました。京都グリーン購入ネットワークでは、今後さらに市民の方々がグリーン購入を知る機会をつくり、エコなものづくりが応援される「グリーン購入の輪」を会員の皆さんと一緒に広げていきたいと思っております。

と き：2005 年 12 月 10 日（土）、11 日（日）

ところ：京都府総合見本市会館（パルスプラザ）

主 催：京都府、京と地球の共生府民会議、
京都府地球温暖化 防止活動推進センター、
（財）自治総合センター

出展企業/団体一覧（ ）内は出展内容

- 株式会社上田屋、八木株式会社、コクヨ近畿販売（株）
- エコ雑貨クラブ、●NPO法人 NPO環境フォーラム、
- ガラス再資源化協議会 京都支部、●株式会社川島織物
- 環境技研株式会社、●NPO法人環境市民、
- コープ イン、京都、●（有）紀書房、（株）松田洋紙店
- 日本紙工（株）、●光工業（株）、●京都グリーン購入ネットワーク

詳しくは http://www.k-gpn.org/0a_topics0601.html



会場には多くの親子連れが訪れ、グリーン購入に関するパネルを熱心に見ていました。

京都GPN 3つの目的

- 1 環境に優しい商品・サービスを京都府内に普及し、グリーン市場を拡大します。
- 2 グリーン購入に取り組む消費者・事業者・行政の情報交換と活動促進の場とする。
- 3 京都府内で環境に優しい商品・サービスを提供している事業者の活動を促進する。

グリーン購入に取り組んでいることをアピール！

京都グリーン購入ネットワークの マークが使えます

環境報告書や名刺などに京都グリーン購入ネットワークのマークを使うことができます。グリーン購入に企業内外で取り組んでいることをアピールし、さらに一緒に取り組む仲間を増やしていくための機会になりますのでぜひご利用ください。使用にあたっては、手続きがあります。詳しくは下記サイトでご確認ください。

※所定フォームの備考欄に「京都グリーン購入ネットワーク」のマーク使用を希望とお書き添えください。手続きが終了次第、京都GPN事務局よりロゴデータを送ります。使用の決まりは以下に準じます。

http://www.gpn.jp/gpn/logos/gpn_logo_rules.html

部会・幹事会の報告

■環境ラベル研究部会

第2回環境ラベル研究部会

と き：2005年10月7日（月）午後3:30から5:00

ところ：京都府庁別館

内 容：京都のグリーン購入基準を策定する対象分野の検討

第3回環境ラベル研究部会

と き：2005年12月19日（月）午後3:30から5:00

ところ：環境市民事務局

内 容：京都のグリーン購入基準を策定する対象分野のグリーン購入ガイドラインの内容を検討

■合同開催

第5回 広報普及啓発合同部会

と き：2005年12月22日（木）午前10:00から12:00

ところ：環境市民事務局

内 容：事業者向けセミナー企画検討、エコ発注ソフトの発表方法について

■京都グリーン購入ネットワーク 第7回幹事会

と き：2006年1月19日（木）午後3:00から5:00

ところ：京都府庁旧館 1階 企画環境部会議室

内 容：部会報告、京都府環境フェスティバル2005 他

会員紹介



— 物流のグリーン化はもうはじまっている —



お話を伺った、
管理本部 CSR 環境推進部長
齋藤光仁さん（右）
同じく CSR 環境推進部
吉富有美さん（左）

経 済活動に欠かせない物流。温暖化や大気汚染防止への取り組みが重要視される物流のグリーン化はもうすでにはじまっています。今回は、第8回グリーン購入大賞審査員特別賞を受賞した佐川急便株式会社をご紹介します。

モーダルシフトの取り組み

現在、佐川急便では、モーダルシフト、つまり、トラック輸送を環境負荷の小さい鉄道輸送や海上輸送に切り替えた輸送を推進しています。今までも、鉄道輸送はあったのですが、2001年には東京―大阪間を走る特別な貨物列車「スーパーレールカーゴ」をJR貨物と共同で開発し、2004年3月より運行を開始しました。何が特別かというと、従来の貨物列車は最高時速110kmでしか走れなかったのですが、最高時速130kmで走れるように改良したり、荷物を積み込むコンテナを、トラックにすぐに載せられるサイズにしたりと、スムーズに配送されるための工夫があちらこちらにされているのです。これまでインフラに投資をして、モー



右が天然ガストラック、左がディーゼルトラックの排気口にタオルをかぶせたもの。天然ガス車は排気もきれい。

ダルシフトに取り組もうというのですからそのやる気の高さがうかがえます。現在は東京―大阪間の荷物のうち約10%をこのスーパーレールカーゴで運んでいるそうです。約10%と聞くと少ない感じがするかもしれませんが、これでも毎晩走るスーパーレールカーゴは満杯だそうです。（毎晩12時に東京と大阪から同時出発する）今後は、条件が整えば他のエリアでも導入を検討中ということですが、ますますモーダルシフトが進みそうです。

は特に「交通公害」と呼ばれるほどの車の通りが多いところ。例えば淀川の43号線などは、「この通りの空気を少しでもきれいにしたい」という思いから、天然ガストラックを率先して導入するために、天然ガススタンドを設置したそうです。

「街中は台車で！」最近、街中を大きな台車に荷物を入れて、配達しているのを見たことがある人も多いでしょう。あれも物流のグリーン化の一つ。街中にサービスターを設置し、人的な集配を進めることでトラックの使用量を減らそうという取り組みです。現在では、東京、大阪、名古屋、そして京都といった、密集した場所でも実施されています。今後は、さらに台車配送が可能な場所はないかどうか検討していくそうです。台車配送は、交通事故防止や駐車場所探さずにすむということで、配達員さんにも安心感があるそう。環境にやさしい配送は人にもやさしいのかもしれない。

グリーンな物流が選ばれる時代

環境へのさまざまな取り組みをされている佐川急便さん。その取り組みへの評判を聞いたところ、「物流業者を決める」コンビニなどで、環境に配慮しているから、という理由で選ばれたこともあります。また、値上げを検討されている企業さんが、『佐川さんは環境でこれだけがんばっ

役員紹介



京都省エネラベル協議会事務局長
伊東真吾 氏

私が環境関連の活動に関わるようになった最初のきっかけは、1991年に発行された「かいものガイド・この店が環境にいい」（ごみ問題市民会議 編集・発行）の作成のお手伝いをさせて頂いたことです。数年前より縁あって家電製品の省エネラベルの仕組みづくりに関わることができ、現在22の都道府県に取組が広がっています。地域において更にきめこまかく先進的な仕組みを追求するために、京都GPNにおいても微力ながらお役に立てればと思います。

聞き手

京都グリーン購入ネットワーク事務局
有川 真理子